

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1295100026		
法人名	社会福祉法人 八光聴		
事業所名	多古グループホーム		
所在地	千葉県香取郡多古町南玉造460-81		
自己評価作成日	平成27年2月20日	評価結果市町村受理日	平成27年4月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート楽楽		
所在地	千葉県旭市口1004-7	TEL	0479-63-5036
訪問調査日	平成27年3月4日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

運営理念のもと「その人らしく」毎日が楽しく笑顔が絶えない生活が送れるよう目指している。また、利用者同士の関わりを深め、一人ではないと思っただけの雰囲気づくりを実践している。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

季節に応じた行事を積極的に計画している。また、隣接する特別養護老人ホームやケアハウスが主催している学校等の訪問音楽会やボランティアによる行事にも参加できる態勢が整っている。多古町が主催している認知症相談会の会場となっている。ここで、当施設の実践を発表し、その後の相談会で、家族の悩みや実践事例を聞く事が、家族と共に、よりよい支援のあり方を考える機会となっている。また、このことが、利用者様のサービスの向上に繋がっている。週1回、定期的に、看護師による訪問健康診断をうけている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所における運営理念を職員全員で共有、実践しすべての利用者がその人らしく幸せに生活できるように努めている。	「地域のふれあい」と「家庭的な雰囲気」が盛り込まれた運営理念は玄関に掲示されている。また、職員会議で唱和しているので、全職員が共有している。それを受け、分かりやすい6項目からなる倫理綱領が作成され、利用者がその人らしく幸せに生活できるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の団体、事業所、民生委員等と積極的に情報を交換し、行事等があれば利用者の皆様にも可能な限り参加を呼び掛けている。	傾聴ボランティアが月1～2回と花遊び(簡単な生け花)ボランティアが月1回の訪問を受け入れている。また、利用者様は敬老会や地域の行事として行っている「わーかちーと」・「保健体操」に参加し、地域と交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員や地域住民を対象とした見学会等を行い、グループホームへの理解、また認知症への理解を深めて頂けるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の団体、事業所、利用者のご家族を招き、定期的に会議を開いている。そこで得た情報や意見等を迅速に対応できるよう職員間の連携を図っている。	町の職員、民生員、家族、職員で年6回の運営推進会議を開催し、サービスの状況や行事の取り組みについて報告や話し合いを行っている。そこでの意見はサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは日常的に連絡を取り合い、お互いの信頼関係を築きつつ、可能な限りの協力体制を構築している。	日頃から施設の現状(インフルエンザの罹患者や病気の程度等も含む)やサービスの取り組みを伝えながら、信頼関係を構築している。町のケアマネジャー連絡会議等に参加し、サービスの向上を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践  代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営理念のもと、その「人」らしい生活を営むために身体拘束については外部からの防犯上やむを得ない場合を除き行わないようにしており、全職員もそれを理解し実践している。	マニュアルが整備され、研修も行われている。日中は玄関等の鍵は施錠していない。出入りする場合チャイムが鳴る構造で、職員が注意をはらっている。居室の鍵は内鍵で事故等の場合は外側から解錠できる構造になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現状において、利用者対家族、利用者対職員の関係は至極良好な状況にあり、虐待の発生はないと思われる。今後万が一発生してしまった場合においては見過されることの無いよう家族及び職員に注意喚起していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	可能な限り研修、受講の機会を設け、日常的に行われる直接介護の技術だけでなく、制度的なことや、それを取り巻く法的な知識も合わせて習得するよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	こちら側から畳み掛けるような契約ではなく、利用者及びその家族が十分に理解、納得されたうえで契約に対して安心感を抱いていただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の意見や要望は、随時検討し可能な限り反映させ、場合によっては関連機関に報告または指導を受ける。	運営推進会議や家族会議等での些細な意見も記録されている。それらを運営に反映させながらサービスの向上を図っている。意見箱が設置されているので、記入用紙等を用意していただきたい。	苦情相談を受け付ける外部の委員会を設ける事を期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な職員会議及び毎日のミーティングにおいて運営上の意見や提案に柔軟に対応し、反映している。	目標申告時や、その進捗状況確認時に管理者と話し合う面接後、職員の意見や提案を聞いている。	定期的な職員会議とは別に、サービスの内容や行事等について、話し合う会議を設ける事を期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心を持つことができる職場環境を整えるため、行事等の希望があればスタッフの人員を多く確保するなど柔軟に対応している。事前に翌月の行事の予定があれば、それに対応した勤務を作成している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修にも積極的に参加できるよう、研修のお知らせを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	多古町の認知症デイサービスやグループホームとの交流や相談等を行い、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の生活状況を把握しながら、本人、家族の思い希望を初期のケアプランに実践している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族の苦労等を来所時に聞くようにしている。入所後の希望相談等受け止め、家族との信頼関係を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の状況を確認し、改善に向けた支援の提案をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者は人生の大先輩であるという認識を職員が共有している。皆様の活躍できる場を工夫している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の日頃の様子、本人の思いを家族の面会時、近況報告として、ケアマネ、担当から手紙で伝え、本人を支えていくための協力関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、親戚の方達に面会を勧めたり、馴染みの場所へ出かけ、関わりが途切れないようにしている。	隣接しているデイサービスを利用している友人が訪問することが多い。年賀状作成支援を行い、家族ばかりでなく友人にだす利用者もいる。定期的な外出支援ばかりでなく、希望があった場合柔軟に対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員全員が入居者同士の関係を把握している。気の合う方と一緒に過ごせるよう席を調整、楽しく過ごせるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても入院中は見舞いに行ったり、退所後もケアマネを通じて近況を伺ったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声掛け、把握に努めている。言葉での表現が難しい方は、その行動、家族の情報を得ている。	契約時に入所前の生活状況を家族と話し合い、情報を共有し、その人らしく存在感のある生活が営まれるよう支援している。本人の意向は日頃の会話を基に家族や訪問看護師と協議しながら介護計画に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートを利用し、家族、本人に聞くことで情報を集めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員が入居者の状態を把握している。ミーティングでの職員間の情報交換を密に行い、一人ひとりの生活、心理面等を把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員でケアプラン・モニタリング等、カンファレンスで意見交換を行い、家族の思いや意見を反映させるようにしている。	職員で協議し、その結果を家族や町の担当者、協力医、訪問看護師と話し合っって介護計画を作成している。新しい情報は毎日行っている、ミーティングや記録簿で全職員が共有化し課題解決にあたっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、カードックス等を利用し、身体状況、生活状況を知ることができるようにしている。これらを基にして、ケアプランの見直し、評価に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院の送迎、外出の送迎はホームで柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域生活を継続する為に、民生委員、区長、地域団体、地域包括支援センター、警察、消防署との繋がりを持つように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医療機関に受診している。受診、送迎はホームで行い、受診結果は家族に伝えている。緊急の場合は家族同行を勧めている。	地域の総合病院と提携しているが、かかりつけ医を持っている利用者は、施設による送迎等の受診支援を行っている。受診結果は家族に伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	多古中央病院訪問看護ステーションに依頼、週一回、健康チェックにて適切な指示、助言をもらっている。24時間相談、状態変化に応じて対応できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院による本人、家族の不安を和らげるために面会したり、医療者との面談、早期退院ができるように働きかけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	受診時、家族、主治医と話し合いを行い、本人、家族の希望に事業所としてできることを十分に説明している。	入所時に重度化や終末期の説明を行い同意書を頂いている。本人や家族、及び訪問看護師と協議しながら、随時方針変更等を行いながら、関係機関と連携してチームで支援する態勢が整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すべての職員が心肺蘇生、感染症対策の研修に参加し、事故発生についての対応、ロールプレイングを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回実施し、入居者の安全、安心して避難できるよう全職員が身につけ、地域との協力体制を築いている。	火災を想定した避難訓練を消防署の指導を受けて、年2回実施している。次年度は夜間の避難訓練を予定している。スプリンクラーが各居室、及び共有スペース等に設置され、警報は直接消防署へつながるシステムとなっている。	各種災害を想定した避難訓練と避難経路図の整備を期待する。また、不審者侵入対策訓練の実施も期待する。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄誘導時、耳元で確認したり、さりげなく声掛けしている。ミーティングやカンファレンスでの日々の関わり方を検討したり、職員同士意識向上を図るようにしている。	倫理綱領の3項目にもプライバシーについての記載があり、マニュアルも整備されている。マナー研修も行われているので、一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保が図られている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で外出(外食メニュー)買い物等本人が決められるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく部屋に孤立しないよう声掛けしたり、全員で食事が摂れるよう努めているが、本人のペースや意向に合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月一回の理容サービスを受けている。衣類を選択してもらうことでお洒落な気分を図っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食、夕食は食材を注文している。朝食は入居者に声をかけ決めるようにしている。旬なものは入居者と一緒に下ごしらえしたり、味見、食器拭き等、関わりを持てる雰囲気作りを心掛けている。	オープンキッチンなので、調理している様子が見られ、音やにおいで食欲がそそられる建物構造となっている。個々の能力により食事の下ごしらえや、後片付けをしている。食事の前に、口腔体操を行って、嚥下を防ぐ工夫をしている。食事は職員と一緒に談笑しながら摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分等を毎食チェックしている。栄養士により、毎週カロリー算出し栄養摂取量を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人、家族の希望で歯科医に往診の依頼をしている。毎食後歯磨きし、口腔ケアをしている。義歯の方は、その都度外し洗浄、就寝時は義歯を預かり洗浄剤にて除菌、ケースにて保管している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用している。尿意の無い方も声掛けし、トイレで排泄できるよう支援している。オムツを使用している方の排泄パターン(サイクル)を把握し、オムツが外せるよう努めている。	排泄チェック表を利用して、各利用者に対応した見守りや定期誘導を、プライバシーを損ねないよう支援している。現在、全利用者が職員の支援によりトイレかポータブルトイレで排泄している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は便秘が及ぼす影響を理解し、毎朝適度な運動、多飲水を促し、自然排便を促している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが本人の希望等あれば柔軟に対応している。入浴を拒む方には時間経過で誘ったり、職員を変えて声掛けし、気持ちよく入浴できるよう支援している。	基本的に一人の利用者が、週2回入浴している。一日あたり、2~3名なのでゆっくり楽しみながら入浴できる。体調等で入浴できない場合は、清拭等柔軟に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の生活リズムを整えるようにしている。一人ひとりの体調を考慮し、休憩を促している。眠れない方はお話ししたり、本人が就寝できるまで見守っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が何時でも処方箋ファイルを確認できるようにしている。正確に服用できるよう確認している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しやたたみ、食器拭きなど活躍できる場面を作っている。旬な食材の皮むきなど持てる力を発揮できるよう努め、メリハリのある生活、気分転換等の支援をしている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候、体調、本人の希望を考慮しながら、散歩、外食、ドライブに出かけている。	買い物は希望により、随時おこない、隣接しているケアハウス内に週2回売店が開設されて、職員同行で買い物に出向いている。施設の周りが自然が豊なので、季節や天候を配慮しながら、散歩している。行事としては近隣の名所等の見学や外食会を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者からの希望があったときは、所持していただけるようになっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	入居者からの希望があれば電話をしたり、手紙のやり取りも可能である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中は外の光が最大限に入るつくりとなっている。天気の良い日は窓を開け換気をしている。湿度にも注意を払い、入居者が気持ちよく過ごせるようにしている。	天候によって玄関も目隠しされた網戸で換気でき、気持ちの良い風が入る。共用空間等にはポランテアによる花遊び(簡単な生け花教室)で生けた作品が展示されている。壁面には利用者の俳句やちぎり絵を掲示し、生活感や季節感をだす工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の方が自分の落ち着く場所を思いのまま過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	誕生日の写真入り色紙、家族の写真等で、その人らしく安心して過ごせる、お部屋づくりをしている。	居室は衛生面を配慮して、フローリング床でベッドでの就寝となっているが、希望により畳を敷き、布団での就寝もできる。クローゼットがあるが、タンス等やポータブルトイレを持ち込んだり、家族の写真等を壁面に掲示したりして、その人らしい部屋作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の表札は大きな字で不安のないよう配慮している。		